

今朝はアザーンより先に目覚めた。時差！という感じはない。ただ歳のせいだろう。夢を見ていた。たいした夢ではない。アザーンが聞こえたが、終わるのを知らずに二度寝していた。また同じような夢を見る。

うつつの生臭きほどの欲望が隠すことなく夢にはいでり
天竺と呼ばれし地にて煩惱のあさましきさま夢にあらはる
アザーンの前座のやうに犬が鳴くヲヲヲフーンと世を嘆くごと

朝食前に催したのでインド初の排便をする。快調だ。木村氏は「出ない」という。

本日の予定はやはり9時出発。我々が10分前くらいにロビーにいるが、やはり若者たちはギリギリになる。何となく昔の自分を思い出して恥ずかしくなる。そう言えば伊豆へ浜田ゼミの旅行に行った時に、先生から預かっていたウイスキーを電車に置き忘れてしまった苦い経験を思い出した。一人で赤面する。

パークストリート駅で地下鉄に乗るが、行き先を告げるとプラスチックのコインのようなものをくれる。色はまちまちだ。それを改札口にタッチして通る。程なく電車が入ってきた。満員だ。ちょうどラッシュアワーなのかもしれない。そして、どどと降りる。パークストリートは市の中心部なので昇降が多いのだろう。午前中だから降りるのが多いということかな。座れるわけではないが、ぎゅうぎゅうにはならない程度でなんとかなった。駅からカーリー寺院までの道のりはどちらが近い。それは木村氏の積年の悩みなのだが、どうでもいいことだ。

まずはカーリー寺院。ここがかつて学生の拉致未遂事件があったという。山羊の生け贄の時間が近いというので、見たい人は見ることにした。僕は外で待つ。しかしなかなか始まる様子はない。なので、切り上げて死を待つ家に行くことにした。日本人のボランティアの方が中をぐるりと案内してくれた後、説明をしてくれる。スミコさんといって、以前も説明を受けた方だ。彼女が言うには、「ともかくインドのカースト制度については勉強してください」とのことである。自分の外側であること、そして社会の底辺であること。その人たちがあちこちで拾われてやってくるということだ。そして、健康を回復したら、かつて居たところを探して連れて行く。そこがわからない人は拾われた場所に戻すのだそう。莫大な経費や旅費がかかってもそうするのだと。

人間の生き方というものについて考えることになった。スミコさんに聞くところによると日本からボランティアも多いが、殊にナースの方が仕事に詰まったときなど、自分の原点を探しに数ヶ月のボランティアにすることがしばしばあるとのこと。看護学科の学生のことか思い浮かんだ。帰りの地下鉄は満員。しかし、パークストリート駅ではどどと降りたので助かった。しかし、出口でプラスチックの切符コインではなく、ポケットの中にあった10ルピーを投じてひと恥かいた。

ホテルに戻り、12時ちよつと前に集合。チェックアウトして市内を歩く。木村ペースなのでスタスタと人混みをかき分けて歩くのだが、あるところで何かにつまづいて前のめりにこけてしまった。そして露店の店先を少し崩す感じで倒れ込んでしまった。申し訳ないと思って謝罪したが、店主はむしろこの哀れな異国からきた老人を思いやつてくれ、通り係のインド人も「だいじょうぶか?」と声をかけてくれたり、立ち上がるのを手伝ってくれたりする。インド人の優しさにふれて思わずこみ上げてくるものがあつた。

皆に追いつき、レストラン「アンバー」へ行く。ここは何度か来たことのある高級インド料理店である。ということはあのタマネギが食べられる。「あの」と書いたが、付け合わせの小さなタマネギ

で、丸ごとほおばる。こいつがうまいのだ。ともあれ、研究者、もといキングフィッシャーもいただき、インド料理を堪能したが、右手の中指の爪が割れているのに気づいた。先ほどの店頭で傷ついたものらしい。よけいな被害拡大がないように割れたあたりを整えようと爪切りをリュックから出そうとした。しかし、探しても出てこない。やむを得ず、木村氏に爪切りを持っていないかと尋ね、拝借することにした。どうやらホテルで、オールドモントクの瓶の口を開けるのに使ったまま枕元にでも忘れてきたらしい。それと黄色のトレーナーも忘れてきたようだった。うーん、なんということだ。着替えが一気に不足してしまう。まあ、いい。バラナシで何か買うか。

ワークシェアというかインドではオーダー担当、料理運び担当、飲み物担当などフロアの労働者の分業がしっかり分かれていて、それぞれが暇そうに自分の仕事が来るまでボツと立っている。自分の担当ではない仕事を言いつけられても動きはしない。つまり飲み物担当に注文しても知らぬ顔なのだ。だから客の数に比して従業員の数が多いのがちよつとした驚きだ。

食事代は400ルピーくらいではないかと思う。店を出ると果物市場をいつもながら見物していく。けっこうタフな散策だ。僕らはなれているが初めての人にはなかなかの光景だと思う。残念なのはこのあたりでオレンジを買いそびれたことだ。

ハウラー橋をわたってハウラー駅に行く。橋は撮影禁止なのだが、スマホの普及のせいかなし崩し的になっているようだ。無邪気に自撮りをしている人がいる。それはハウラー駅でも同じことだ。サンタが出ていてみんながカメラを向けていた。時代は変わっていくものなのだ。

16:00にはハウラー駅についてしまった。6時間もの時間がある。僕は聖書を読んで時間を潰していたがなにかと若い人たちは楽しんでいる。Wi-Fiがうまく行かないのでということから彼らは撮影ごっこを始めていた。

駅の飲食店はがらりと改装されていた。フードコートで好きなものを食べることにする。僕はスペシャルエッグターリー130ルピーをいただいた。こいつは手で食える。旨い。やはりインド料理は手で行かなくちゃ。脇の店が飲み物屋で、珍しがってローズラッシー65ルピーというのを試してみた。シャンプーを飲んでるようなので次はふつうのものにしよう。

18,744 EX 9622 504Kcal